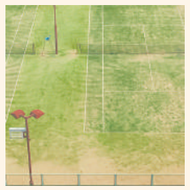
香川大学フォトコンテスト

PHOTO CONTEST



香川大学内を撮影してInstagramで投稿しよう！

香川大学の魅力を広く発信することを目的として、Instagramを利用したフォトコンテストを開催します。2019年からスタートし、今回で第3回目の開催を迎えることとなりました。

作品募集！ 第3回 香川大学フォトコンテスト2020 Part2

■募集期間
令和2年11月1日（日）
～令和3年2月14日（日）

■応募資格
香川大学学生、卒業生、教職員など、どなたでもご参加いただけます。

■募集作品について
香川大学内（どのキャンパスでも可）を撮影した写真。被写体は風景、建物、人物、サークル、部活動の様子等、何でもOK。ただし、個人が特定される人物が含まれる場合、必ずご本人（被写体）の承諾を得た上で応募してください。応募者本人が撮影した、未発表の作品に限ります。

■賞
学長賞1名（QUOカード1万円分）
広報室長賞1名（QUOカード5千円分）
アイデア賞2名（QUOカード2千円分）

■応募方法
①香川大学公式Instagramをフォローする（必須）。
②写真を撮影し、「#香川大学フォトコン2020_2」をつけてInstagramに投稿する。
③1回の投稿につき、1枚の写真（タイトル付き）を掲載する。

■受賞発表
令和3年3月3日（水）に香川大学ホームページで発表します。受賞者にはInstagramのダイレクトメッセージで受賞式についてご連絡します。

■その他注意事項
・投稿いただいた作品は大学ホームページ、公式SNS、広報誌等で大学広報のために利用させていただきますので、ご了承の上、ご応募ください。
・公序良俗に反するもの、個人・企業・団体等を中傷したり、プライバシーを侵害するもの、他人の著作権・肖像権に抵触するものの投稿はご遠慮ください。
・Instagramアカウントを非公開にしている場合は、選考の対象外となります。
・Instagramのダイレクトメッセージで連絡が取れなかった場合は、受賞者の権利を放棄したものとみなします。

■問い合わせ先
香川大学広報室
TEL 087-832-1027
Email soumkot@kagawa-u.ac.jp

今回も一緒に、
香川大学フォトコンテストを
盛り上げましょう！

香川大学公式
Instagram

香川大学HP
応募方法ご案内

キャンパスを彩る 13点の絵画の秘密

図書館や医学部附属病院などの壁面に掲げられた絵画のことをご存知ですか?
学内に13点あるこれらはすべて、元教育学部教授、故・木村美鈴先生の作品です。
30年以上香川大の教壇に立ち、退官後も創作を続けた先生の遺作が所蔵されたいきさつについて、大学広報室副室長の若井亜希子さんに伺いました。

※1

木村美鈴 香川大学寄贈遺作品

MISUZU KIMURA *Campus Treasure vol.1*

『大きな花2』　学長の一番のお気に入り。「大きな花」は、右上に描かれているめしべのような形状を指しています。※2

『無題』※1

『瀬戸内II』※1

『大きな花1』※

『白い時・春II』※1

『大きな花2』と同じモチーフをベースにしていると思われる4作品。アトリエは屋島を一望できる場所にありました。美しい瀬戸内の風景が、木村先生の作風に影響を与えたのは間違いないでしょう。

［展示場所］
※1 図書館中央館　※2 学長応接室
※3 医学部附属病院

COLUMN 木村美鈴の当時を知るお弟子の松丸光さんにお話を伺いました

木村美鈴の人となり「いつもポジティブな方でした」

「木村美鈴遺作展をサポートする会」の代表、松丸光さん。自身の芸大受験の際に、当時大学院生だった木村先生を紹介されたのが馴れ初めでした。自然を愛し、おおらかな方だったと言います。

「チャボを飼っていらして。増えすぎちゃって『飼わない？』と」

木村先生が情熱を傾けた中国旅行に松丸さんも何度か同行しました。

「『顔がむくんでるわよ』とかそんな話で笑っていました。何回目かのときには『チベットにも行かない？』って言われて。『お金がないから無理です』といったん断ったら『じゃあお金があれば行けるのね？』と、額を作るお仕事をくださったり。それでものの見事に高山病になったんですけどね（笑）」

冒険好きで、チャレンジ精神旺盛。

「焼物や織物もやっていらしたし、料理や手芸も大好き。もちろん、絵についても独自のサイズを試したり、探求していた。中国旅行の経験を経て、先生はさらなる新境地を開かれたと思います」（松丸光）

木村美鈴 先生

教え子の個展で絵を買ってあげたりと、巣立った後も生徒が慕う先生でした。

木村美鈴 香川大学寄贈遺作品

MISUZU KIMURA

感性を刺激する香川発のアート

木村美鈴先生は、1940年高松市生まれ。東京芸術大学美術学部絵画科油画で学び、同大大学院を修了します。74年に香川大学教育学部の講師となり、以来2003年に退官するまで、一貫して同学部で教鞭をとりました。香川大の卒業生でもある広報室の若井さんは次のように当時を振り返ります。

「先生の授業を受けたことがありますが、大らかで明るく、華やかな方でした。真っ赤な割烹着をよく着ていらっしゃったんですよ。授業のときだけでなく、その格好でどこにでも行ってしまう。近くのカフェでも見かけました。パンツ姿でさっそうと歩いていらっしゃる姿も印象に残っています」

そんな「絵になる」存在でもあった木村先生が亡くなったのは2017年8月。アトリエには大作からスケッチブックまで、膨大な作品が残されました。

「これらを無にするには忍びない、とお弟子さんたちが遺作展を県民ギャラリーで開催するにあたり、香川大に後援の依頼と寄贈の申し出がありました。本当に皆さん熱心で、学長とともに遺作展に行ってみると素晴らしい作品ばかり。13点を譲り受け、大学の博物館であらためて2019年2～3月に『寄贈作品展』を開催しました」

その後、学内で作品を常時展示することになります。その中の一つが、学長応接室の『大きな花2』という作品です。中央には黒く塗り込められた人物がいて、その脇には花のような形象も。ただ美しいというだけでなく、独特の吸引力があります。

「木村先生はアネモネがお好きで、左下に見えるのがそうですね。学長室にお越しになる方の想像力や発想力を刺激したいという学長の強い思いがあって、ここに展示しています」

医学部附属病院に展示されている『丘に立つ』は、女性が丘から月を見上げていて、希望を見出しているような前向きなメッセージが感じられます。

「医学部の『讃岐の丘から』というキャッチコピーにもマッチしていることから、この場所に決まりました」

柔らかな自然光が入る図書館の自習室には、4作品（P21掲載作品）が並んでいます。これらは、県民ギャラリーの展覧会では引き取り先の決まっていないものでした。

「制作年もわからず、未完成だからサインも入っていない、という話を聞いて、学長が、だからこそ学生に見てもらいたいと仰ったんです。想像力をかき立てられますよね。」

これらに共通するのは青。島のようなものも見えます。先生が生まれ育ち、愛した瀬戸内海でしょうか。

「どの作品にも人物が登場し、想いを巡らせている様子が描かれています。木村先生が作品に込めた気持ちやメッセージを、見る人の感受性や解釈で自由に発展させていってもらいたいです。」

香川大のDRI教育は、文系／理系の枠を超えて、新たな価値の創造を目指しています。そこにはアートとサイエンスの融合といった観点も含まれ、実際に芸術祭等に参加して地域課題を解決する授業も行われています。木村先生のアート作品が見る人の感性を刺激することで、キャンパスから新しいイノベーションが生まれるかもしれません。

『丘に立つ』　真っ先に医学部附属病院での掲示が決まった。※3

『無題』『青い時』シリーズの一作と推定されています。※3